建設工業新聞　2023年(令和5年)7月4日(火曜日)

国内初 事業保全に信託方式

深松組 笹川小水力発電所(朝日)が竣工

創業地で地域貢献

あいさつする深松社長

朝日町笹川地区で建設が進められてきた笹川小水力発電所の竣工式が6月30日、同町が創業地で施工者の深松組(本社・仙台市、深松努社長)主催により現地で執り行われ、来賓・関係者ら約50人が盛大に祝った。再生可能エネルギー固定買取制度(FIT)を活用し、事業保全に信託方式を組み合わせた国内初の試みとなる。

同地区には約100世帯が居住。笹川自治振興会が管理する簡易水道施設は老朽化が著しく、更新費約3億円を捻出することが困難だった。そこで深松組が更新費と維持管理費用を確保するため、小水力発電事業を組み合わせた手法を提案。同地区を流れる笹川に、定格出力199キロワットの発電設備や水道関連の設備を新設するとともに、水圧管路を1093メートルにわたり埋設した。売電することで、老朽化した水道施設の工事費に充てる。

テープカットで竣工を祝う関係者

事業推進にあたって町が水道設備新設費用を補助金で3割を負担。住民も建設用地をほぼ無償で提供し、北陸銀行が優遇利率を適用するなどバックアップした。総事業費は約7億8500万円。

竣工式では、発電所を所有し管理運営するすみれ地域信託(岐阜県高山市)の井上正社長があいさつし、来賓の齋木志郎県商工労働部次長(知事代理)、笹原靖直町長、上田英俊衆院議員、野上浩太郎、堂故茂両参院議員、鹿熊正一県議が順に祝辞を述べた。続いて深松社長が「創業地である笹川地区のさらなる発展のために今後も努めていく。全国には笹川地区のように課題を抱えている地域があるので、そういった地域を救うきっかけになれば」とあいさつ。深松隆北陸支店長が工事概要を説明した。最後に関係者がテープカットし、井上社長と深松社長が運転開始式を行った。